



2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

株式会社 駒井ハルテック

証券コード：5915

2025年12月3日

■ 本日、皆さまにお伝えしたいこと

駒井ハルテックについて、覚えておいていただきたいこと

1

創業140年以上の歴史があり、**橋梁や大型ビルの鉄骨などを高精度で製造**して安全・安心な社会インフラの構築を支えている企業

2

既存事業で培った技術を活かして成長が期待できる**洋上風車タワー製造**に参入して**持続可能な社会への貢献**を目指している

3

健全な財務基盤を背景に**堅実な株主還元**を実施



目次

1. 駒井ハルテックの これまで (会社概要・強み)	P. 4
2. 駒井ハルテックの いま (業績推移)	P. 15
3. 駒井ハルテックの これから (長期ビジョンと今後の戦略)	P. 23
4. Appendix	P. 29

駒井ハルテックの **これまで**

(会社概要・強み)



会社概要

街をつなぐ・支える・守る

商号	株式会社駒井ハルテック（英訳名 KOMAIHALTEC Inc.）
設立	1883年（明治16年）創業
本社所在地	東京都台東区上野一丁目19番10号
従業員数	620名（2025年3月末・連結）
資本金	66億1,994万円（2025年3月末）
事業内容	【橋梁事業】 橋梁の設計・製作及び現場架設、鋼橋の現場工事の施工及び維持補修 【鉄骨事業】 鉄骨・鉄塔の設計・製作及び現場建方 【インフラ環境事業（再生可能エネルギー・海外インフラ事業）】 風力発電システム及び太陽光発電システムの設計、製作、施工
関連会社	【連結子会社】 東北鉄骨橋梁(株) …………… 鉄骨・橋梁 (株)シップス …………… 印刷・不動産 KHファシリテック(株) …………… 鉄骨・橋梁

夢を架け 空間を創る

高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する

顧客のニーズに応え、安全で高品質な製品・技術を提供することで
社会インフラをささえる企業

沿革

創業以来、歴史的な建造物や橋梁の製造に携わり、インフラ構築に貢献

駒井鉄工株式会社

1883 創業



1914年
紀ノ川橋梁
(現 河合橋)



1921年
初代通天閣



1931年
大阪城天守閣



1970年
大阪万博
(イタリア館)

1963年
京都タワー



1984年
南備讃瀬戸大橋



1991年
大阪ワールド
トレードセンター



1994年
大阪ドーム



株式会社ハルテック

1921 創業



2012年
三重大学



2023年
西普天間橋梁



2023年
役内川橋



2023年
麻布台ヒルズ
森JPタワー
©DBOX for Mori Building Co.,Ltd.

2010 合併により設立

株式会社駒井ハルテック

2012年
東京スカイツリー®



2016年
長谷大橋



2019年
国立競技場
大成建設株式会社様提供

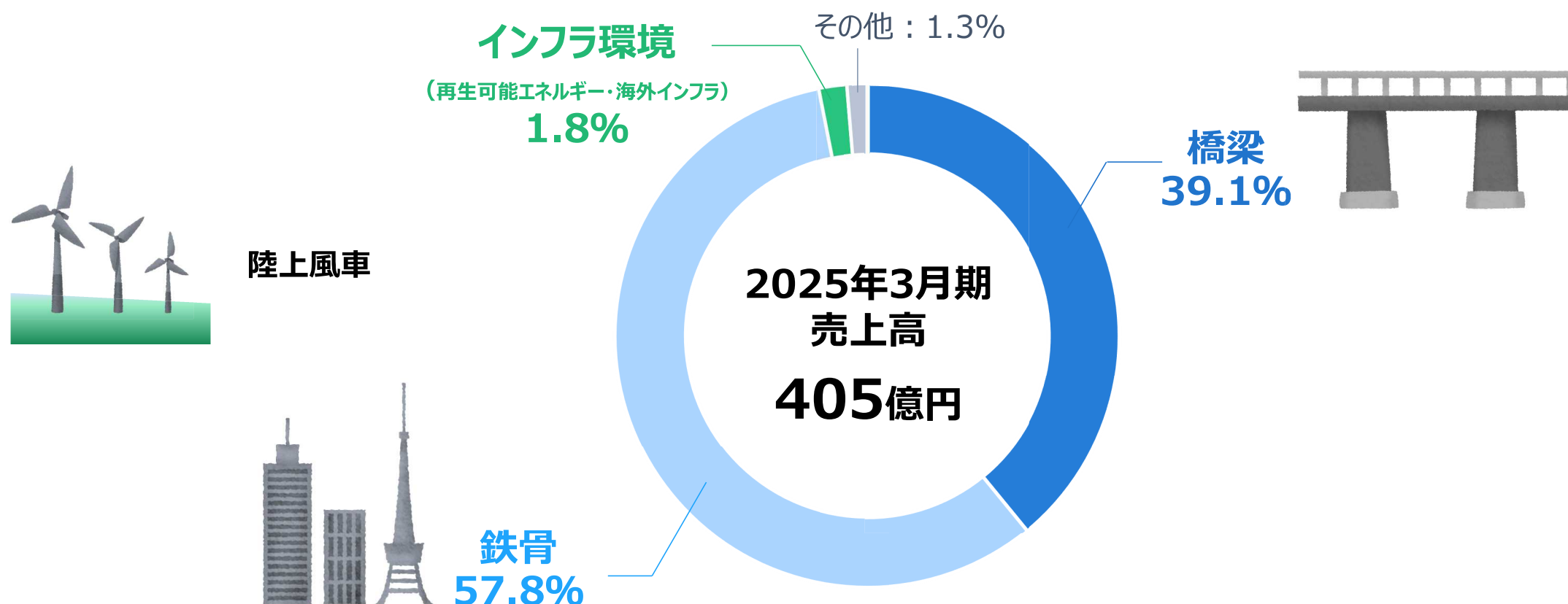


2020年
三浦市宮川公園

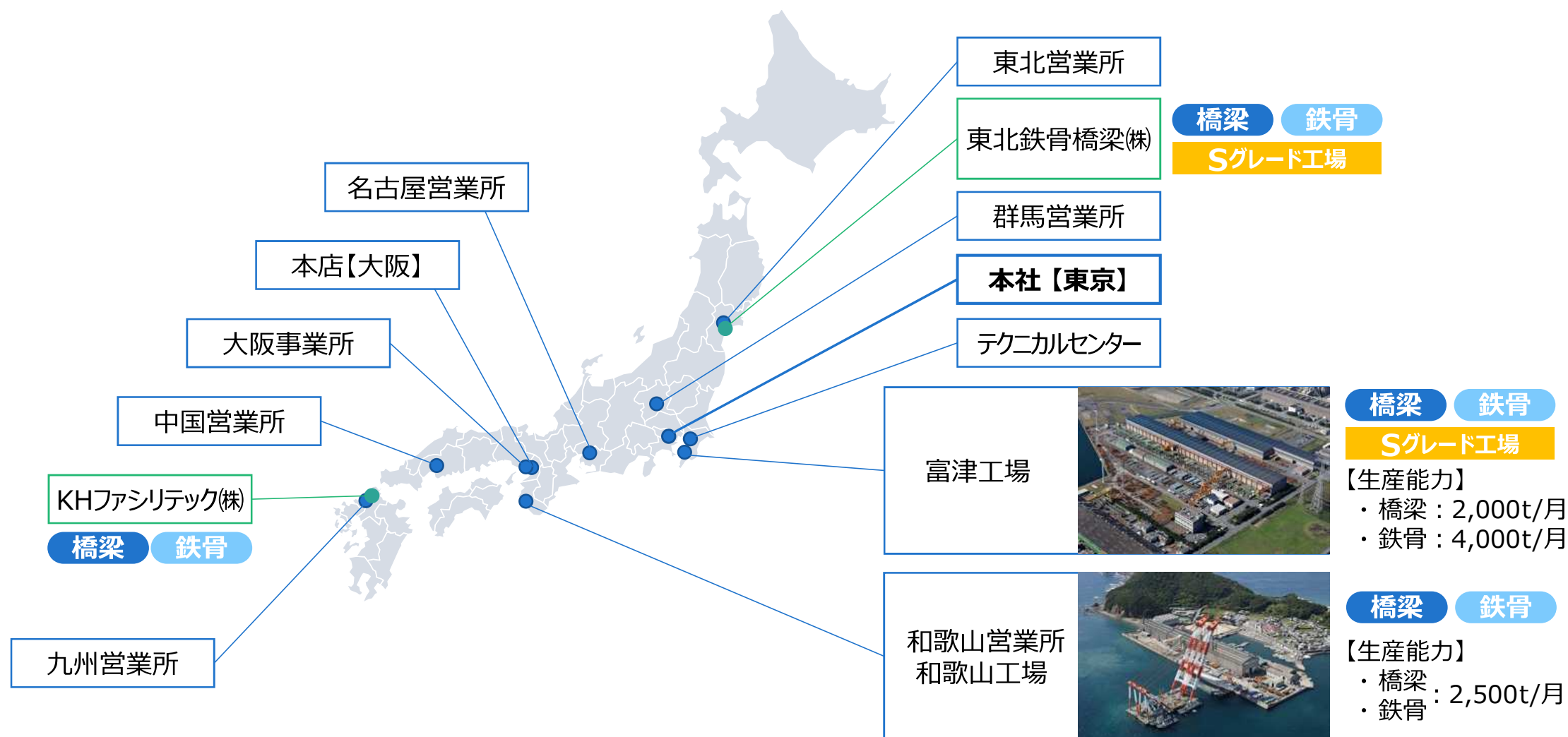


売上構成

「橋梁」と「鉄骨」のコア事業を収益源とし、成長事業である「インフラ環境事業」への投資を推進



事業所・工場



駒井ハルテックの事業を支える技術

災害に強い都市の骨格を支える ～鋼構造技術のリーディングカンパニー～



高強度・極厚鋼材の溶接技術

溶接部の品質制御により、高強度・極厚鋼材に対する高度な溶接技術を保有
鋼構造物における優れた耐久性と安全性を確保

都市空間を支える製作技術

耐震・制震・免震装置を支える鋼構造物の高度な製作技術により、建築物の安定性と信頼性を高め、安心して暮らせる都市空間の形成に貢献

都市の未来を形にする技術提案力

設計初期段階からの技術サポートや、仕様変更への柔軟な対応力が強み
また、DXによる品質管理の高度化を進め、効率と品質の両立を実現、最適なソリューションを提案

■ 駒井ハルテックの事業を支える安全対策

全従業員の総力を結集し、安全衛生活動の活性化を図っています

建設現場の問題

- ・ 国内産業界の労働災害発生件数は高水準で推移
- ・ 橋梁・鉄骨の現場では重大災害が発生

当社グループの安全への取り組み

- 安全衛生方針である「人命尊重」を基本理念とした事業活動
- DX技術を活用した橋梁・鉄構の現場作業の見える化推進

現場の安全への取り組み

施工前	受注時	新規受注工事検討会にて工事内容の把握、問題点の洗い出し
	施工計画立案時	施工方法・仮設構造物の確認
	施工計画審査	工事着手前の計画確認
施工時	作業手順会	主要工種の施工前に作業員全員に対し作業方法の周知
	店社パトロール	現場施工期間中の安全パトロール（施工計画の実施状況確認）



安全集会



安全パトロール

橋梁

業界トップクラスの橋梁メーカー

- 耐震補強・老朽化等の補修・補強工事でも、安心・安全な社会づくりに貢献
- 近年は鋼橋分野だけでなく、鋼・コンクリート複合橋梁や老朽化した橋梁の長寿命化のための予防保全工事などにも積極的に取り組む



市場環境

- 橋の新設・メンテナンスを含む土木工事需要の増加
 - 国土強靱化策に伴い高速道路・鉄道などの橋梁工事の増加
 - 高度成長期に建設された橋梁のメンテナンス需要が増加
 - 大阪湾岸道路西伸部や高速道路の4車線化などインフラ整備が進行中



橋梁建設のワンストップソリューション

積算から現場施工まで橋梁建設のすべてを担う

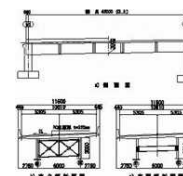
積算

設計

材料手配

工場製作

現場架設



鉄骨

国内随一の溶接技術で鉄骨ファブリケーター業界を牽引

- 鉄骨製作工場性能評価最高位の「Sグレード」認定工場を2工場有する
官公庁庁舎や超高層オフィスビル鉄骨製作のトップメーカー
- BIM設計、製造、施工まで、すべての工程を担うことが可能
- 鋼板板厚70mmのサブマージアーク溶接※ 1パス施工を国内で唯一実現できる
高度な溶接施工技術を保有し、客先からの絶大な評価により大型案件を受注



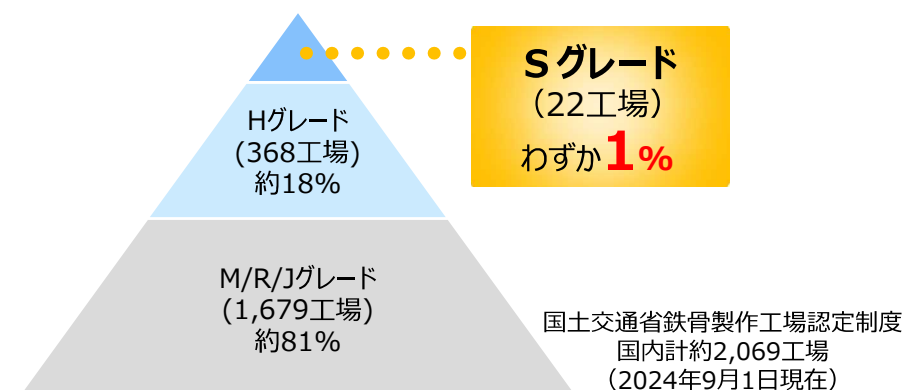
市場環境

■ 高度な技術を要する大型案件の増加

- ・ 日本橋、八重洲、大手町、品川、新宿、六本木などで再開発超高層ビル建設が、今後目白押し
- ・ 高度成長期に建設された建造物の維持管理、大型免震構造需要が増加
- ・ 駅前再開発に伴う建築と土木が融合した鋼構造案件が増加

2工場でSグレード認定を取得し大型案件に参画

高度な技術を有する超高層ビルの鉄骨製作が可能なのは
Sグレード認定工場のみ

板厚の
制限なし高度な
溶接技術万全な
品質保証体制

※ サブマージアーク溶接（submerged arc welding）アーク溶接の一種、粒状のフラックス（融剤）と溶接ワイヤを使用する溶接工法。
弊社は70mmの板厚を1パス（1度）の溶接で施工が可能、高効率で溶接品質が安定しているのが特徴。

インフラ環境
(再エネ・海外インフラ)

唯一国内で風車製造、電力需要に合わせた地域マイクログリッドに対応

- 橋梁・鉄骨事業で培った高度なノウハウを活かし、日本の風土に適した風力発電システムを製造、建設、19年の実績
- 風況調査から建設工事、保守点検まで、トータルソリューションを提供
- 離島のマイクログリッドにも対応



市場環境

■ 風力発電のニーズが増加

- ・ 環境にやさしいクリーンなエネルギー
- ・ 政府による導入目標の明示
- ・ 大量投入・コスト低減・経済波及効果期待など

■ 中型風車のニーズが増加

- ・ 離島や日本に多い山岳地にも対応可能
- ・ 大型に比べて建設が容易

など

過酷な地形・気象条件に適した風車の開発

大型機が導入できない離島や遠隔地での導入が可能

中型風力発電機「KWT300」開発

- 台風仕様
- 標準仕様
- 寒冷地/極寒冷地仕様



台風や乱気流に強い

高い輸送効率と施工性

電力系統へスムーズに接続

- ・ 世界でも類を見ない毎秒90mの耐風速を実現
- ・ 厳しい気象条件下で安定した性能を発揮

駒井ハルテックの いま

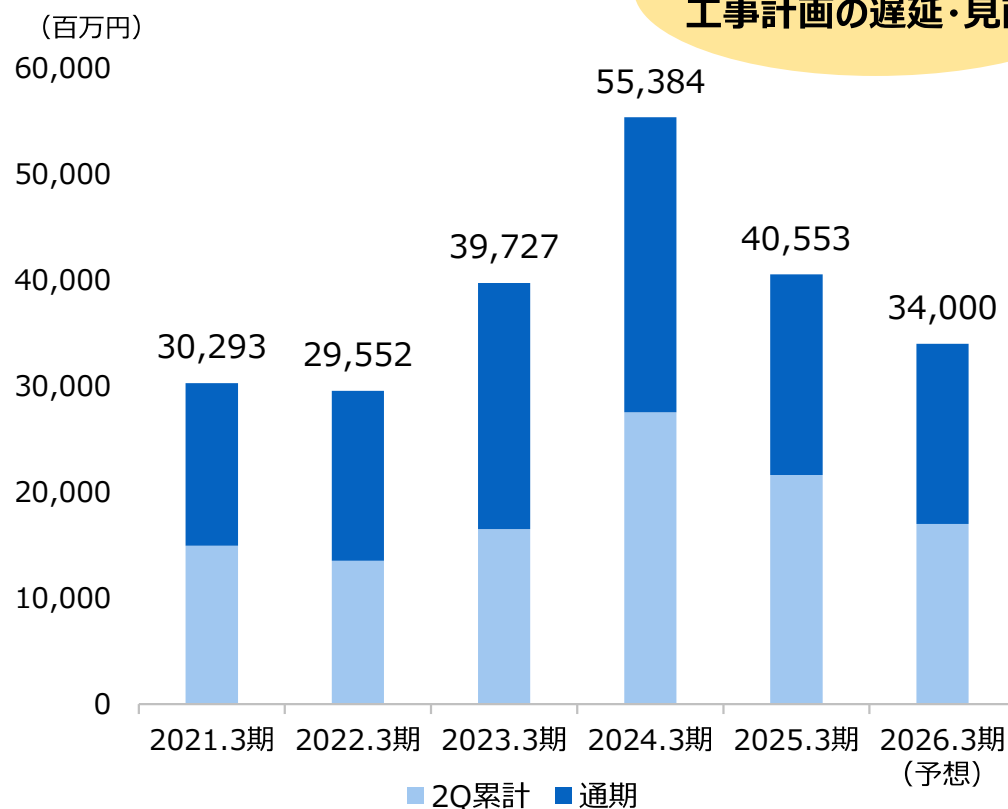
(業績推移)



業績推移

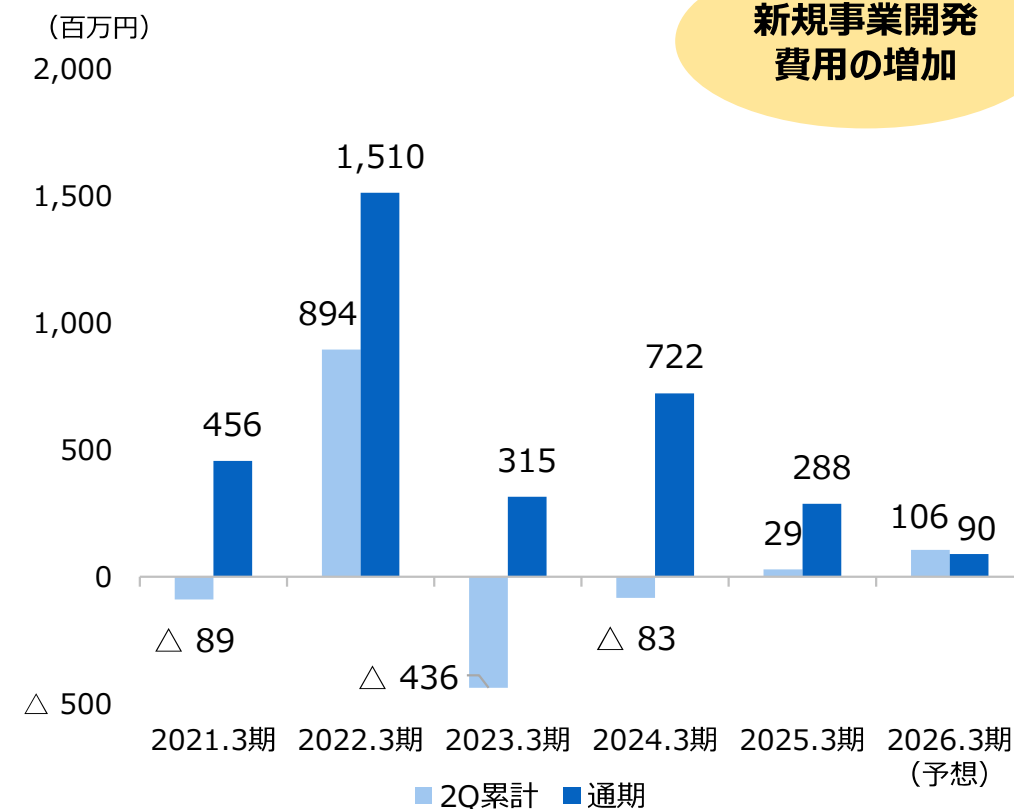
首都圏再開発を追い風に成長を続けていたが、世界的なインフレに伴う鋼材価格の上昇に加え、新規事業開発費用の増加などで成長ペースは鈍化

売上高



建設コストの高騰による
工事計画の遅延・見直し

営業利益



新規事業開発
費用の増加

利益の状況

洋上風車タワー製造に係る事業開発費用がかさんでいるが、
既存事業は堅調で従来と同水準の利益を確保している

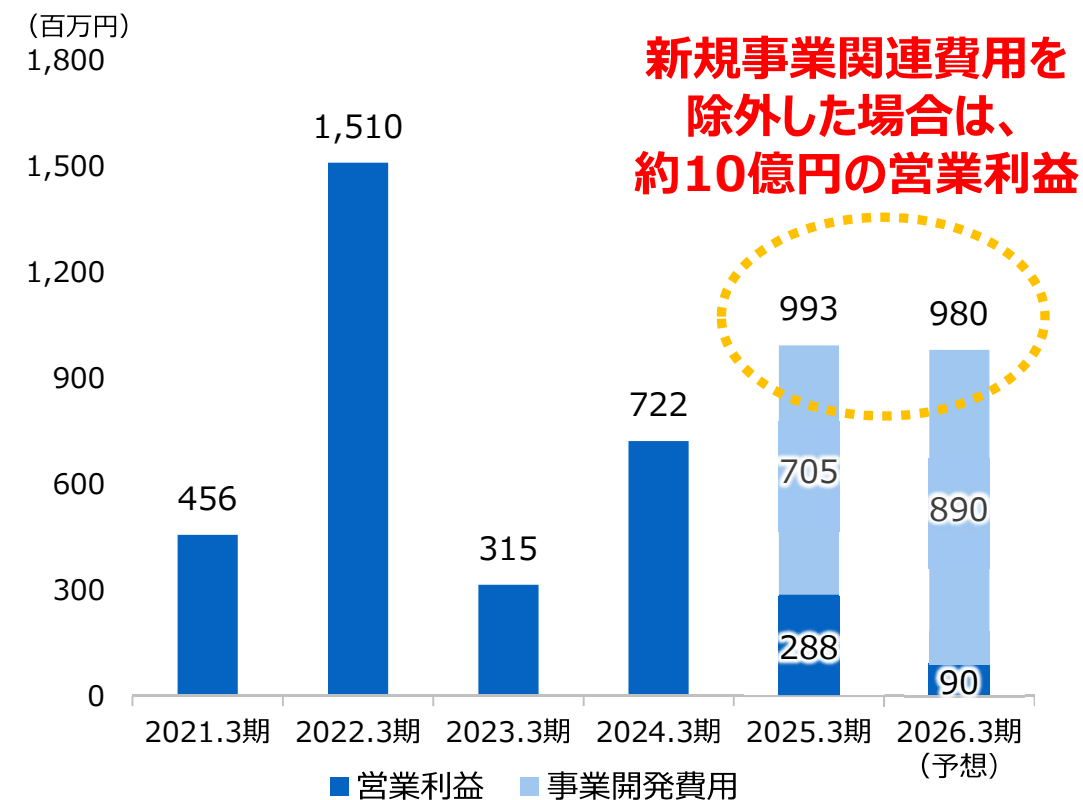
新規事業開発の状況

- 設備投資総額 8,700 百万円
- 洋上風車タワー製造に係る事業開発費用
 - ・ 2025.3期 705 百万円
 - ・ 2026.3期（予想） 890 百万円

主な投資内容

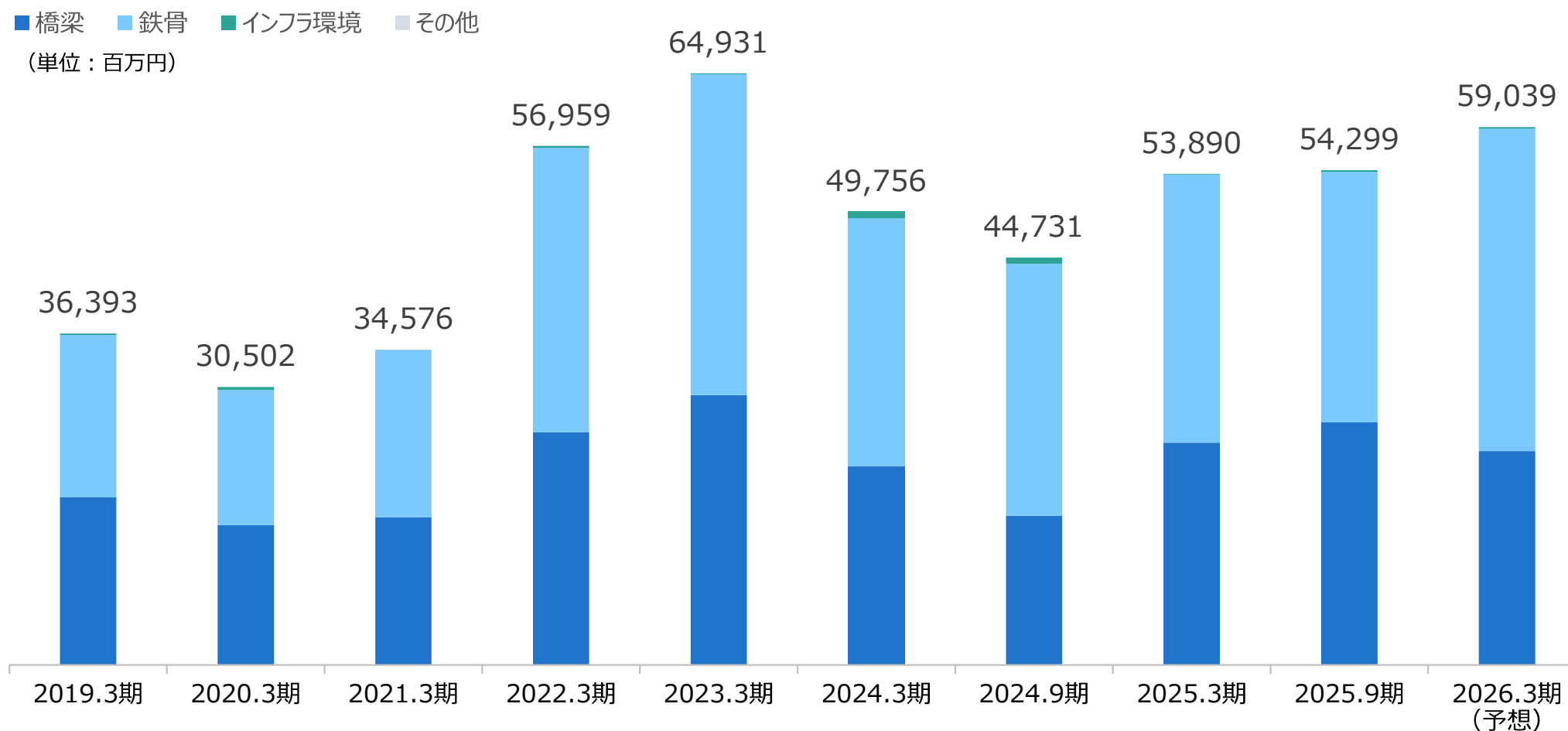
- ・ 大口径鋼管溶接システム
- ・ 板曲げ加工機
- ・ AIを活用した非破壊検査システム
- ・ ブラスト・塗装ロボット

営業利益



受注残高の推移

積極的な営業活動により2025年9月期の受注残高は前年同期比21.4%増となった



損益計算書

	2025年3月期	2026年3月期		
	実績	中間期実績	予想	対前期増減率
売上高	40,553	15,794	34,000	△16.2%
橋梁事業	15,856	6,104	13,400	△15.5%
鉄骨事業	23,452	9,412	19,600	△16.4%
インフラ環境事業	712	12	500	△29.8%
その他	531	265	500	△5.8%
営業利益	288	106	90	△68.8%
親会社株主に帰属する当期（中間）純利益	1,274	181	180	△85.9%

業績予想の根拠

- 売上高は、期中受注が低調になること、工事進捗が下降することから、前期比減少すると予想
- 営業利益は、売上高減少による売上総利益減少に加え、洋上風車タワー製造に係る事業開発費用が増加し、前期比減少すると予想
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期の投資有価証券売却益の計上がなくなったことにより減益

営業利益減少の要因

洋上風車タワー製造に係る事業開発費用 **890 百万円** (2026/3通期予想)
前期比 +184百万円

※当該新規事業関連費用を除外した場合の
2026/3通期営業利益予想は980百万円

セグメントごとの売上高及び利益の状況

(単位：百万円)		2025年3月期実績		2026年3月期	
		中間期	通期	中間期実績	通期予想
売上高		21,620	40,553	15,794	34,000
	橋梁事業	8,282	15,856	6,104	13,400
	鉄骨事業	13,060	23,452	9,412	19,600
	インフラ環境事業	12	712	12	500
	その他	265	531	265	500
セグメント利益又は損失		29	288	106	90
	橋梁事業	876	2,560	1,210	1,420
	鉄骨事業	156	△104	230	950
	インフラ環境事業	△199	△459	△268	△310
	その他	△804	△1,708	△1,064	△1,970

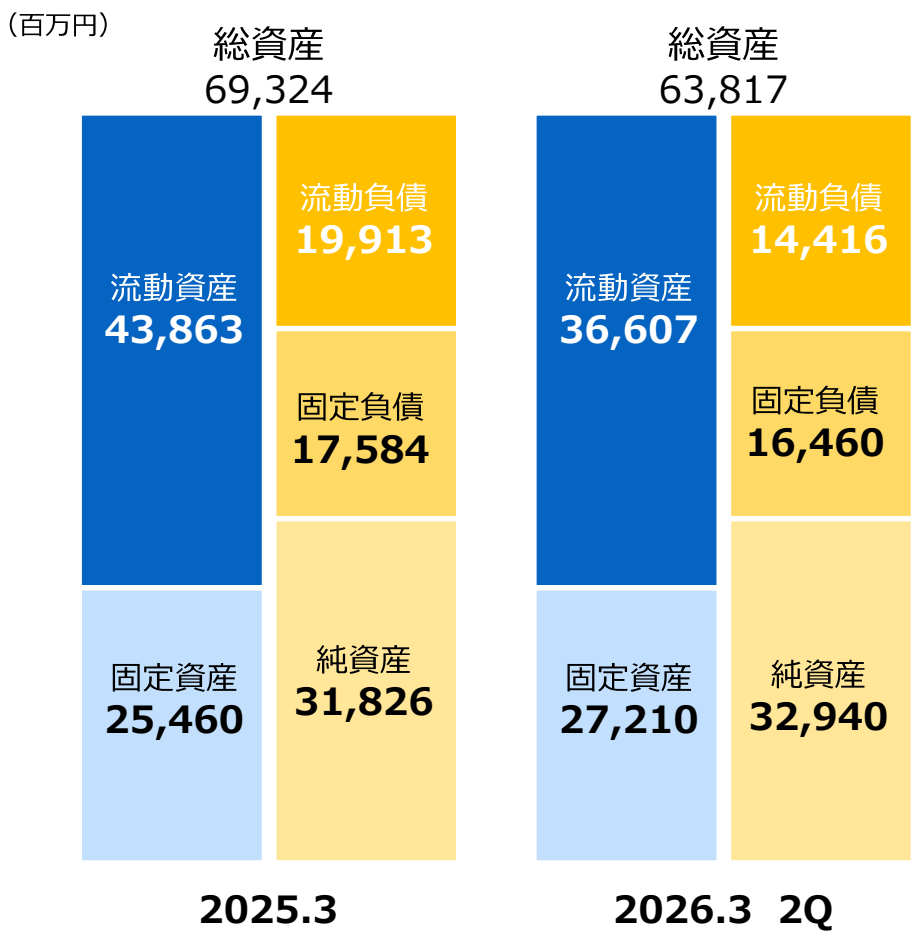
※ その他は、不動産事業及び調整額を含む

- 2026年3月期第2四半期実績は、橋梁事業、鉄骨事業ともに減収する状況ながら、設計変更獲得及び原価改善の取組により増益となった
- インフラ環境事業は、製品ラインナップ開発コストが先行し赤字
- 調整額のマイナス拡大は、新事業開発に伴うコスト増加による

貸借対照表

新規事業開発と株主還元能耐うる健全な財務体質を有している

貸借対照表



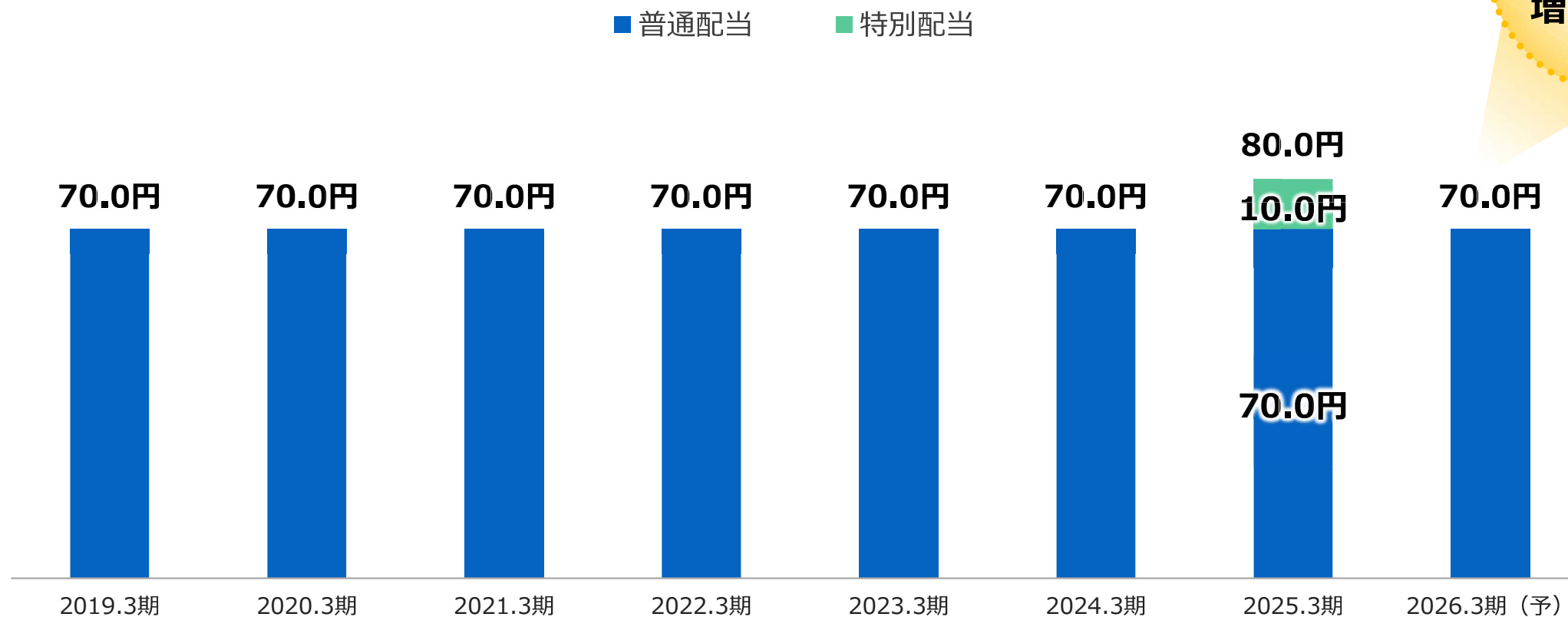
(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期 2Q
流動比率	220%	253%
固定比率	79%	82%
自己資本比率	45%	51%

株主還元

配当方針

- 競争力向上や事業拡大の投資を行いつつ、適切な還元を行う方針
- 現在の70円配当を基本とし、業績の拡大に応じた増配を検討
- 従来以上に配当への配慮を強める



業績の
拡大に応じた
増配を検討

駒井ハルテックの **これから**

(長期ビジョンと今後の戦略)



駒井ハルテックの今後の展開

鋼構造物製造技術が活かせる分野への多角化を図り、事業ポートフォリオを強化

新規事業

「持続可能な社会」の実現に向けたソーシャルソリューションを提供



陸上風車事業



洋上風車タワー事業

橋梁事業

道路橋・鉄道橋など、あらゆる鋼橋の分野で高品質な橋梁を製造



既存事業

鉄骨事業

官公庁庁舎や超高層オフィスビルなど著名な建造物の鉄骨を製造



鋼構造物製造技術

高精度溶接

特殊鋼材加工

耐震技術

防食塗装

三次元CAD

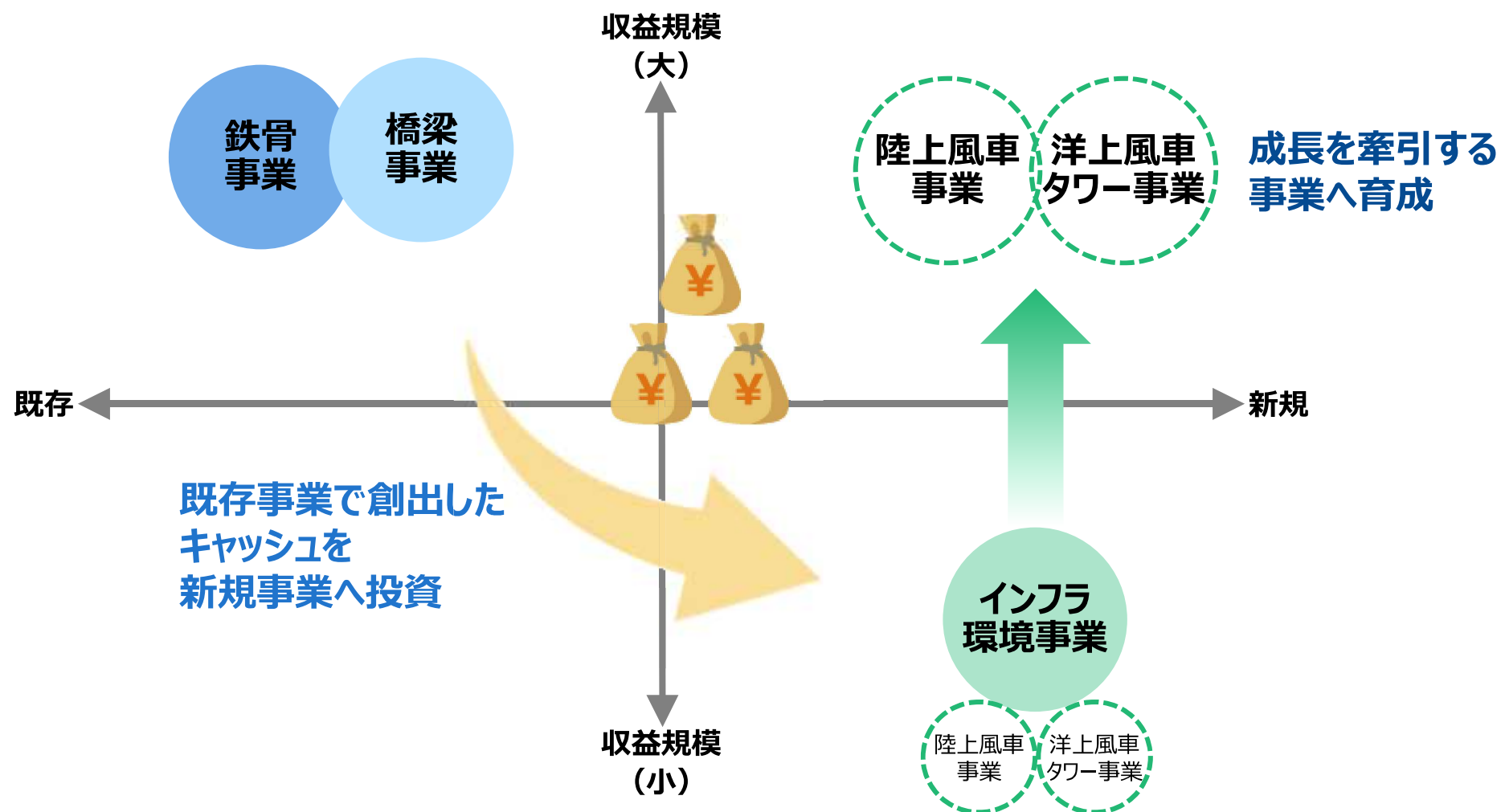
ロボット溶接

モジュール化

スマートファクトリー

目指す事業ポートフォリオ

既存事業で創出したキャッシュをインフラ環境事業に投資し、早期事業化を図る



駒井ハルテックの成長ステップ

鋼構造物建造技術を活かし、持続可能な社会に貢献

現時点

中期経営計画 2023
2024年3月期～2026年3月期

構造改革に着手



次期中期経営計画
2027年3月期～

構造改革を加速



長期ビジョン

鋼構造物製造技術を活かし、
持続可能な社会に貢献



長期ビジョン

鋼構造物製造技術を活かし、 持続可能な社会に貢献

目指す姿

- 蓄積した鋼構造物製造技術を活用し、経営基盤を拡充
- 橋梁・鉄骨から風力発電設備まで、広範な社会基盤の整備に貢献
- 高い安全衛生水準と働きがいのある会社を目指す



■ 本日のまとめ

1

創業140年以上の歴史があり、**橋梁や大型ビルの鉄骨などを高精度で製造**して安全・安心な社会インフラの構築を支えている企業

2

既存事業で培った技術を活かして成長が期待できる**洋上風車タワー製造**に参入して**持続可能な社会への貢献**を目指している

3

健全な財務基盤を背景に**堅実な株主還元**を実施

Appendix



大規模プロジェクト計画【橋梁】

大阪湾岸道路西伸部工事
(六甲アイランド北～駒栄)



未来の大規模橋梁プロジェクト計画

下関北九州道路

(下関市～北九州市 約6km)



東京湾口道路

(富津～三浦半島 約10～15km)



紀淡海峡大橋

(紀伊半島～淡路島 約10km)



伊勢湾口道路

(渥美半島～志摩半島 約20km)



建設中・計画中の再開発プロジェクト一覧

日本全国で大型再開発が続く

東京

東京駅周辺

- ・ 八重洲一丁目北地区再開発事業・南街区（2029年度）
- ・ 八重洲二丁目中地区再開発事業（2029年度）
- ・ 八重洲二丁目南地区再開発事業（2029年度）
- ・ 内幸町一丁目街区南地区（サウスタワー：2028年度）
- ・ 内幸町一丁目街区中地区（セントラルタワー：2029年度）
- ・ 内幸町一丁目街区北地区（ノースタワー：2031年度）
- ・ 日本橋一丁目中地区再開発事業・C街区（2025年度）
- ・ 日本橋一丁目東地区開発・A街区（2031年度）
- ・ 日本橋一丁目1・2番地区開発・A街区（2032年度）
- ・ トウキョウ トーチ・トーチタワー(常盤橋プロジェクト)（2027年度）
- ・ 外神田1,2,3番再開発・A街区（2028年度）
- ・ 京橋三丁目東地区再開発事業（2030年度）
- ・ 日本橋室町一丁目地区再開発（2030年度）
- ・ 丸の内3-1プロジェクト（2031年度）

赤坂・虎ノ門

- ・ 赤坂二・六丁目地区開発計画（2028年）
- ・ 虎ノ門一丁目東地区再開発事業（2027年）
- ・ 六本木五丁目西地区市街地再開発事業（2030年）

浜松町・品川・田町・芝浦

- ・ 品川駅西口地区A地区（2029年度）
- ・ 品川駅西口地区C地区（2028年度）
- ・ 東工大田町キャンパス土地活用事業・施設A（2032年）
- ・ 芝浦一丁目計画新築工事N棟（2030年度）

渋谷・新宿・五反田・池袋

- ・ 渋谷二丁目西地区再開発事業・B街区（2029年度）
- ・ 道玄坂二丁目南地区再開発事業（2026年度）
- ・ 西新宿一丁目地区プロジェクト(明治生命安田ビル他跡地)（2026年）
- ・ 新宿駅西口地区再開発事業（2030年）
- ・ 東池袋一丁目地区再開発事業（2029年度）

横浜

- ・ 横浜市旧市庁舎街区活用事業（2025年）
- ・ みなとみらい21 中央地区52街区開発事業（2027年度）
- ・ みなとみらい21 中央地区62街区開発事業（2028年）
- ・ 関内駅前港町地区再開発事業（2029年度）

名古屋

- ・ 名古屋駅地区再開発（2033年度）

仙台

- ・ 仙台市役所本庁舎建替（2030年度）

札幌

- ・ 札幌駅交流拠点北5西1西2地区市街地再開発事業（2028年度）
- ・ 大通西4南地区第一種市街地再開発事業（2028年度）

※（ ）は竣工予定年度

洋上風車タワー製造について

新規事業
【洋上風車タワー製造】 早期の事業化

主な取り組み

- NEDOグリーンイノベーション基金およびGXサプライチェーン補助金を活用して、洋上風車タワー製造専用ラインを整備
⇒投資総額：87億円
- 開発技術実証のための試験体製作を通じて、合理的な生産技術の確立と、低コスト生産体制の構築を実現
- 2026年以降事業開始に向け、欧米風車メーカーの要求事項に取り組み中

試験体の製作状況



塗装・ブラストロボットの開発



A I 非破壊検査システムの開発



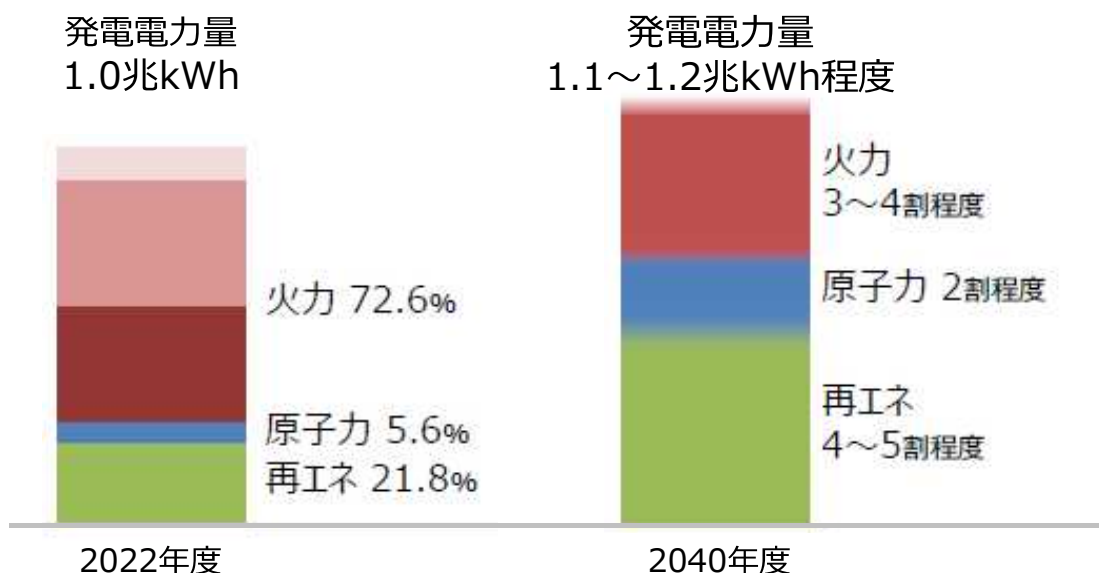
洋上風力産業の見通し（１）

- 第2次洋上風力産業ビジョンにて、2030年までに10GW、2040年までに30～45GW、国内調達比率目標65%を目指すことが明記された
- 洋上風力発電は、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた切り札として期待され、その市場拡大が見込まれる

エネルギー基本計画（第7次） ※資源エネルギー庁・2025年7月発表

再生可能エネルギーを主力電源として最大限導入

再生可能エネルギー電源構成推移



（出所）資源エネルギー庁資料

風力発電の国産化を進める方針

洋上風力産業ビジョン(第2次)

※洋上風力の産業競争力強化に向けた官民協議会

<2020年12月発表>

政府による導入目標

2040年までに
30GW～45GW
の案件を形成

産業界による目標

2040年までに
国内調達比率：65%

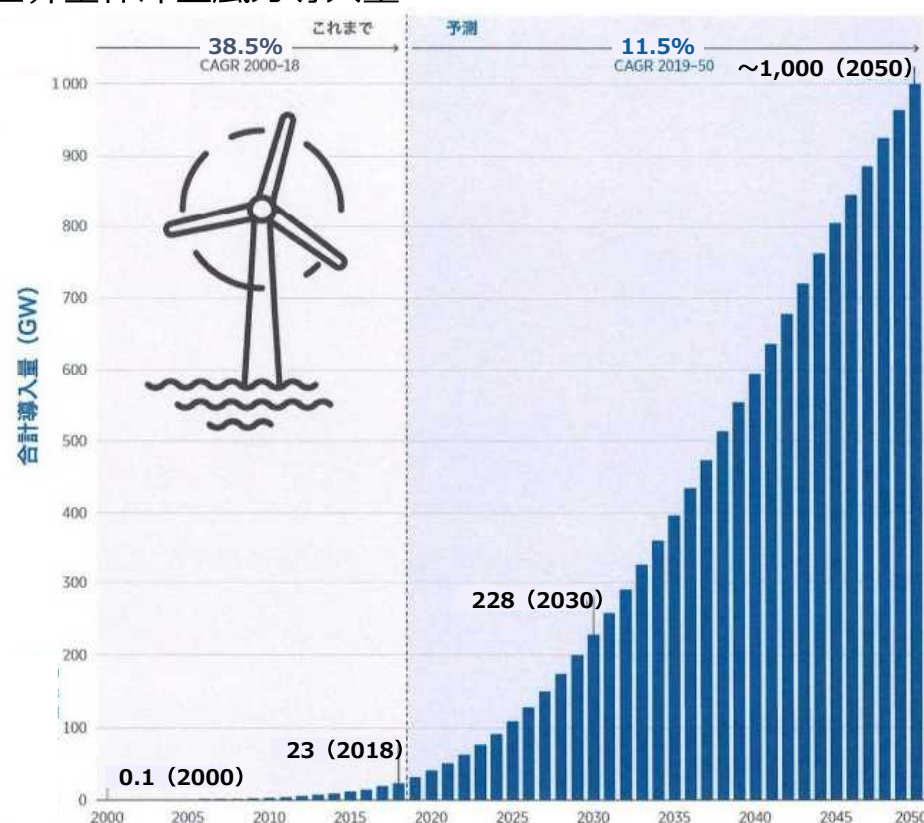
洋上風力産業の見通し（２）

世界

急伸長する世界の洋上風力発電

2050年までに1,000GWの導入が見込まれる

■ 世界全体洋上風力導入量



Source : IRENA 2019a, Future of Wind

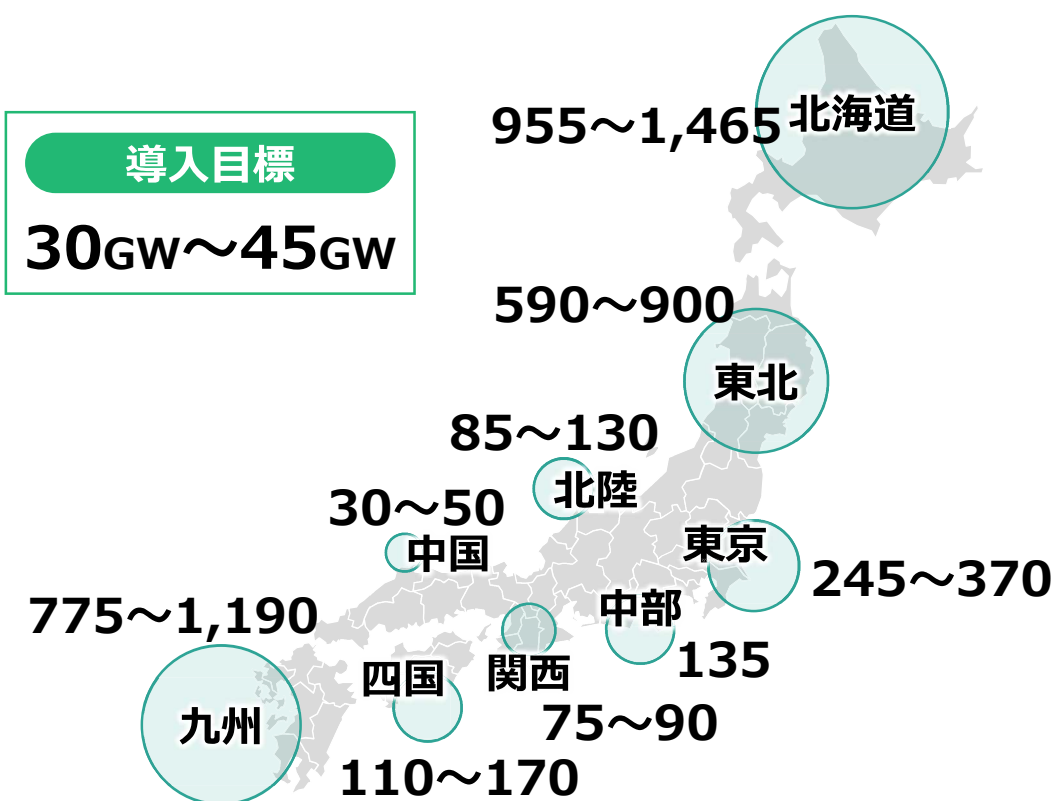
Historical values based on IRENA's renewable capacity statistics (IRENA, 2019d),
future projections based on IRENA's analysis (IRENA, 2019a).

日本

国内の洋上風力発電導入の動き

2050年までに温室効果ガスゼロを
目指すことが宣言された

(単位：万千瓦ワット)



(出典) 2050CN実現のための基地港湾のあり方検討会「国内外の洋上風力発電の将来展望～脱炭素の最有力手段」より抜粋
自然エネルギー財団「洋上風力発電に関する世界の動向[第2版]」2021年6月

お問い合わせ先

株式会社 駒井ハルテック

住所 〒110-8547 東京都台東区上野一丁目19番10号

TEL 03-3833-5101

この資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。